

## 「八重山、歌の旅」

竹富町立波照間小学校 5年生 本比田 一朗

「小浜ていーる一島。」

この歌は、小浜島に古くから伝わる「小浜節」です。「この島はとても豊かな島だ。大岳に登ると、いねや粟がたくさん実っていてなんて美しい」と言う歌です。

ぼくは、去年の十二月に小浜島に行きました。小浜島では、三線を背負って大岳という山に登りました。頂上からはエメラルドグリーンの海にぼく達の住む波照間島や、竹富島、西表島などの島々がうかんでいるのが見えます。そこでぼくとお母さんは、八重山の島々を見ながら歌いました。下を見ると、さとうきび畑や牧草地が広がっています。まるで小浜節の歌詞に出てくる「稲や粟の田んぼ」のようです。ぼくは、「ねえ、お母さん。小浜節の『稲粟ぬ実り』ってこういう風景だったのか。」

「そうだね。四百年前もこういう風景だったんだろうね。」

「あつ。あそこに牛が畑をたがやしているの見えるよ。」

「あはは。あれは、トラクターだよ。」

「あつそうか。あつちでは、粟をかり取っている人がいるよ。」

「あれは、牛を養っている人が草をかっているんだよ。でも、何百年前と同じ景色が残っているっていいね。」

小浜節の旅で、昔と変わらない八重山とそれを歌った八重山の歌がますます好きになりました。

八重山には、島ごとに色々な歌が残されています。「崎山節」は波照間の人々が西表の崎山村に強制移住させられ、ふる里を思いながら歌った悲しい歌です。「くいぬばな節」は新城島のくいぬばなという高台から、松という男がとったタコを他の女の人の人にあげたので奥さんのマカが怒って鍋やおちゃわんを叩き割ったという、面白い歌です。八重山のすごいところは、このような歌に出てくる風景が今も残っているところです。

ぼくは、八重山の歌を沢山覚えて、来た人に聞いてもらいたいです。そうすることで、旅がもっともっと楽しくなると思います。

みなさん、ぜひ八重山に来て「くいぬばな」に登ってみてください。ほら、マカが鍋やおちゃわんを叩き割っている様子が目にうかびませんか。